

国境・民族・文化を超えて共に生きる心豊かな社会の構築に寄与し、市民による福祉文化の創造をめざします。



こころの家族

2026年9月
371号 (隔月刊)

故郷の家・東京を訪れた「合唱団かえるたち」のメンバーとともに歌う、同合唱団の初代代表だった入居者さん(8ページに記事)



日本の魅力

8月末にソウルへ行ってきた。
1977年から38年間ソウル市の委託事業で運営したソウル総合職業専門学校の教師たちと、そこで学んだ共生園卒園者たちに会って来た。

今、韓国は、経済と文化の両面で世界に存在感を示している。音楽、映画、ドラマ、食文化などでも注目される国になっている。彼らに日本を感じる魅力を聞いてみた。

「日本は伝統を大切にしながら新しい技術が共存し、人への思いやりと仕事の丁寧さを大切にする国。
京都には寺院や茶道、書道、祭りがあり、東京にはAI、ロボット、アニメ、ゲーム、先端産業がある」

韓国の青年が日本に関心のあるのは、日本で技を学び、心を学ぶことだ。

「日本という社会を教室にして、世界の青年リーダーを育てる教育」をやって欲しい。

そして、2028年。
共生園100年記念に木浦に故郷の家を建てましょうという。
共生園で育った卒園者たちは高齢者になった今、共生園で一緒に暮らしたいという。

社会福祉法人こころの家族

尹基 (Tauchi Motoi)

100 年の感謝を歌声に――

共生園「水仙花合唱団」が11月、東京へ



この夏、熊本、千葉、北陸を襲った度重なる災害により尊い命を失われた方々に心より哀悼の意を表します。ご遺族の皆様には謹んでお悔やみ申し上げます。

また、ネパールや海外でも災害が続いており、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます、一日も早い復旧・復興と、平穏な日々が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

韓国木浦共生園と再活院の子どもたちの「水仙花合唱団」の歌声が、この11月、東京に響きます。

「故郷の家・東京10周年」をお祝いして、2年後に迎える共生園100年のあゆみへの感謝を胸に、この秋、日本を訪ねます。日本の同じような境遇の子供たちや高齢者と出会い、国境や世代を超えて共に歌い交流する旅です。

共生園は1928年、尹致浩によつて始められました。その後、



日本人女性・田内千鶴子が尹致浩とともに、親を失った多くの子どもたちを育てました。

共生園の園花は「水仙」です。

寒い冬を越えて春に花を咲かせる水仙に、どのような境遇にあつても希望を失わず育つてほしいという願いを重ねてきました。

その名を持つ「水仙花合唱団」も、長い歲月、子どもたちの希望を歌声に託してきました。

1971年には、初の日本訪問が実現しました。

あれから半世紀以上。

新しい世代の水仙花合唱団が再び海を渡ります。

100年を支えてくださった日本の皆さまへの「ありがとう」を歌うため

に。

そして、日本でさまざまな事情を抱えながら暮らしている子どもたちと出会うために。

時代は変わりましたが、子どもが子どもと出会い、歌を通じて心を通わせることの大切さは変わりません。

韓国の子どもも、日本の子どもも、一緒に歌えば同じ仲間です。

互いに励まし合い、「あなた一人ではない」と感じられる時間をつくりたいのです。

2028年、共生園は創立100周年を迎えます。

100年の「ありがとう」を、歌声に。

そして、その歌声を次の100年の友情へ。

11月25日、午後、水仙花合唱団が故郷の家・東京で歌います（※その他日程は調整中）。



日韓・韓日共生フォーラム

少子・高齢社会における福祉・介護人材確保対策

人の足りない時代から人を育て合う時代へ

日韓・韓日が共に考える、福祉・介護と未来の人材

日本と韓国は今、世界でも例を見ない速さで少子化・高齢化、人口減少という大きな社会変化に直面しています。高齢者人口が増加する一方、生産年齢人口は減少し、福祉・介護を支える人材の確保は、両国共通の重要課題となっています。しかし、これは単なる「人手不足」の問題ではありません。

これからの高齢社会を誰が支えるのか。福祉・介護を担う人材をどのように育て、守り、誇りと希望を持って働ける社会をつくるのか。社会の将来そのものに関わる課題です。

そこで、このたび日韓両国の福祉・介護・人口問題などの専門家・実践者を迎え、日韓・韓日共生フォーラムを開催いたします。

フォーラムの最後には、共に取り組む方向を示す「東京提言」を予定しています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時 2026年11月5日(木) 15:30 受付、16:00 開始、19:00 閉会

会 場 日本プレスセンター 10 階 [東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル
地下鉄三田線「内幸町」駅、千代田線・日比谷線・丸ノ内線「霞が関」駅下車]

第1部 基調講演 (16:10 ~ 17:10)

韓国から **李 仁實** (韓半島未来人口研究院院長、元統計庁長)

日本から **炭谷 茂** (社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官)

第2部 パネルディスカッション (17:20 ~ 18:50)

コーディネーター

中村秀一 (元厚生労働省老健局長、医療介護福祉政策研究フォーラム理事長)

パネリスト

呉 俊 (元国連韓国大使、Save the children 韓国理事長)

古都賢一 (全国社会福祉協議会副会長、元厚生労働省審議官)

金 聖二 (元梨花女子大学教授、元保健福祉家族部長官)

田中雅英 (社会福祉法人三交会理事長、東京都高齢者施設協議会会長)

李 載玄 (NPO スクール代表、韓国と United Way World wide にて Director を歴任)

東京提言 (18:50)

閉会・記念撮影 (18:55 ~ 19:00)

主 催 社会福祉法人こころの家族

共 催 韓国社会福祉法人 共生福祉財団、韓国社会福祉法人 尹鶴子(田内千鶴子)財団、韓国社会福祉法人 済州共生

定 員 : 120 名 参加費 : 無料

申 込 : 先着順で受付 10月1日(木) ~ 10月30日(金) 10:00 ~ 16:00
10月15日(木) ~ 受付票を順次メール等でお送りします。

お問い合わせ : ☎ 072-271-0881、fax 0722-71-5474、E-mail : kazoku@kokorono.or.jp

(理事・参与 早川泰史、担当 : 橋本)

※なお、講師等については変更場合があります。

元花順駐日韓国大使夫人が来訪

故郷の家・東京で寄付伝達式

7月31日、故郷の家・東京にて、駐日大韓民国大使夫人、元花順様ご一行をお迎えし、故郷の家への寄付伝達式が執り行われました。

当日は、在日のご利用者様

を中心に15名の入居者様が参

加され、和やかな雰囲気の中

で式が進められました。

伝達式の後には施設内をご

見学いただき、入居者さまと

も交流の時間をもって頂きま

した。懐かしい

言葉や文化に

触れながら、

笑顔のあふれ

るひとときと

なりました。

施設で暮ら

す在日の方の

生い立ちや、福



社施設運営にも関心を持たれ、理事長の説明に笑顔でうなずかれるお姿が印象的でした。

皆さまに直接お

越しいいただき、あ

たかいお心をお寄

せいただきましたこ

は、故郷の家開設

10周年の大きな記

念となるとともに、

私どもにとつて大

きな励みとなりま

した。心温まるご

厚意にふれた、深く

印象に残る伝達

式となりました。

10周年を迎える故郷の家・東京 クリスマスチャン新聞で紹介

クリスマスチャン新聞(いのちのこ
とば社発行、週刊)2026年7
月19日号で故郷の家・東京が「今
秋開所10年 違いは恵み」との
見出しで、紹介された。同紙の高
齢者特集の中で、キリスト教関係
の施設の一つとして取り上げられ
た。

地域の4つの教会の牧師の協
力で礼拝が行われていること、「そ
の人のありのままの尊さ」を大切
にしていること、ミヤンマーほか

9月19日にブンネセッション&コンサート



スウェーデンのステン・ブンネ氏が開発したブンネ楽器を使った音楽療法は故郷の家各施設で取り組まれており、利用者さんが合奏を楽しむなどしている。

5月に行われた京都に続き、9月19日(土)には故郷の家・東京でブンネセッション&コンサートが開かれる。利用者さんが日頃の練習の成果を発表するほか、参加者はブンネ楽器の演奏体験もできる。プロ

ミュージシャンによるタンゴ&ジャズコンサートも楽しみ。

故郷の家・東京のダンス倶楽部の初の発表会も予定されている。午後2時から。参加無料。

問い合わせ 03-3644-0555 (担当・金賢民)



今年の父の日記念行事で…

故郷の家・京都に大阪プロレスがやってきた！

6月17日、故郷の家・京都の父の日行事は、いつも以上に特別な一日となりました！当施設の施設医でもある、札ノ辻診療所の朴錫勇先生の多大なご尽力のおかげで、大阪プロレスから総勢10名ものレスラーの皆さんが駆けつけ

てくださったのです。当日は、故郷の家・京都の利用者様だけでなく、たくさんのご家族様や地域の皆様、そして近隣事業所の「エルファ」さんからも大勢の方がお越しくださいました。さらに今回は、他の各施設ともオ



ンラインで中継を繋ぎ、画面越しにもたくさんの方々にリアルタイムで参加していただくという、新しい試みでの開催となりました。

笑顔と熱気！ 最高の一日！

1時間30分のプログラムは、最初から最後まで熱気の連続でした。まずは迫力満点の「マットプロレス（2試合）」で幕を開け、目の前で繰り広げられる激しい技の数々とユーモアあふれる掛け合いに、会場も画面の向こうも大興奮！ 続いて、レスラーの皆さんの楽しい指導による「プロレス体操」で一緒に体を動かし、会場がすっかり笑顔に包まれたところで、いよいよ「メインイベント」へ！

大阪プロレスならではの笑いとおもしろい勝負が織り交ぜられた最高潮の盛り上がり、応援する手にも思わず力が入りました。

最後の「レスラーとのふれあいタイム」では、憧れの選手たちと握手をしたり記念写真を撮ったり（写真下）と、大興奮の皆様の笑顔がとて印象的でした。参加された方からは、「と



にかく楽しかった！」「たくさん元気をもらった」「また開催してほしい」と、嬉しい声をたくさんいただきました。プロレスを通じて、ご家族や地域の皆様、エルファの皆様、そしてオンラインで繋がった各施設の皆様と心がひとつになった、本当に素晴らしい時間となりました。素晴らしい企画を支えてくださった朴先生、そして熱いファイトを届けてくださった大阪プロレスの皆様、お越しいただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます！



おたより

いただきました感想・メッセージにつきましては、会報等に掲載させていただく場合がございます。掲載をご希望されない場合は恐れ入りますがその旨あらかじめ明記くださいますようお願い申し上げます。

★いつも楽しみに読んでいただいています。

京都の故郷の家とは交流させていただいています。

前回の田花さんより田内千鶴子さんのことはお話いただき、大変興味深く伺い、感動しました。これからも楽しく読ませてまいります。（京都府・Mさま）

★教職員で回覧しております。いつもありがとうございます。（山口県・Kさま）

★主の聖名を賛美いたします。神様に祝福された御働きを心より感謝いたします。厳しい暑さの中、職員の皆様方はじめ利用者さんおひとりおひとりの健康が守られ幸いな日々をお過ごしくださいね。（大阪府・Oさま）

★7月号、表紙の「あなたがいるだけで」の文章がとてもいいです。あたたかくなります。

また、戦争をなくすこと。安心して生活でき、格差のない社会をつくることも大きな課題ですね。

（兵庫県・Hさま）

福祉の世界で私を育ててくれた故郷の家

インタビュー

朴正米
パク・チョンミンさん

昨年10月、故郷の家（堺）の施設長に就任した朴正米（パク・チョンミン）さん。音楽家として活躍していた朴さんを福祉の世界に導いたのは当法人尹基理事長の「福祉は文化です」の一言でした。今年秋に来日する「水仙花合唱団」が1971年に初訪日した際のメンバーだった朴さん。そして29年前に引き寄せられるように日本で開設された故郷の家にきました。その後、神戸・京都・東京に故郷の家が竣工されるごとに施設長として立ち上げから軌道にのせていきます。きれいなドレスで舞台上に立つことが夢だった利発で努力家の少女は、日本の福祉の舞台で輝き続けています。



——当法人の尹基理事長との出会いはいつですか

朴 小学校6年生のときです。私は韓国木浦放送局の「子ども合唱団」に所属していました。生まれた街・木浦の児童養護施設「共生園」のなかで結成された「水仙花合唱団」が日本公演をすることになり、園児以外の歌を歌うことができる一般の子どもたちも募集。放送局合唱団でオーディションがあり、合格して一員に選ばれました。

日本公演前には、宣教師たちが住んでいた家に合宿して毎日練習。小学5年生から高校生までのメンバーで初めての日本に行き、日本各地で歌いました。記念すべき第1回水仙花合唱団日本公演のメンバーの1人でした。

——オーディションに挑戦されるなど積極的なお子様だった

朴 私は6人兄弟の5番目ですごく明るい性格で、自分でいうのもなんですが、歌も踊りも美術も作文も何でも挑み、常にクラスの学級長でした。

——そして音楽の道へ

朴 子どもの頃からの私の夢は、きれいなドレスを着て舞台上に立つこと。小学生のときから児童合唱団に入り、数々の賞も受賞。自然と音楽家をめざし、光州の大学で音楽を学び、さらにソウルの大学院も目指しレッスンを続けていました。

そんな時、尹基理事長が日本にいらっしやることを金美玉（キムミョク）さんから聞いた。金美玉さんとは「子ども合唱団」の同級生で、金さんは第2回日本公演の出演者（その後ソプラノ声楽家として活躍。理事長と奥様になられた田内文枝・現総括理事が1982年、「共生福祉財団東京事務所」を設立されたことを聞きつけすぐに「日本に留学したい」と、手紙を書きました。

——音楽家を目指しながら日本に手紙を読んだ理事長夫妻が様々

な手続きをしてくださり1984年、日本に。日本語学校に通いながら事務所で週2回ほどボランティアをしていました。主な仕事は翻訳。事務所では「こころの里親」活動をしていたので、親切で優しい手紙がたくさん届いて日本人は心の優しい人が多いと感動しました。ボランティアをしながらも日本語の勉強を続け、武蔵野音楽大学大学院に合格。卒業後、東京藝術大学の研究生として勉強。イタリアのローマでも学びの時を得ました。

——声楽家として世界で研鑽を積まれた

朴 その後韓国に戻り、「帰国コンサート」を開催した他多数のコンサートに出演。出身音楽大学の講師と光州女子音楽専門学校の講師、芸術高校の講師の仕事を兼任し7年間音楽活動をしました。講師の任期を終えた頃、韓国では音楽療法がブームになっていました。1989年に故郷の家が堺に竣工したことを聞いていたので、そこで実践しながら学びたいと1998年、3年間だけのつもりで再び日本へ。京都で赤星音楽療法の講義に通いながら、故郷の家のご利用者さんの前で歌を披露したり音楽療法も実践。そのほか、韓国からの研修生などの国際業務担当、韓国の音楽家を招きコンサートを開くなどの活動をしていました。

3年だけのつもりが

朴 2001年、故郷の家・神戸が竣工したのを見届けて3月に帰国しようと思っていた矢先、オープンしたばかりの神戸の施設長が倒れて。急遽、総括理事が施設長になり「施設長補佐として日本に残ってほしい」と理事長から頼まれました。しばらくという約束で日本に留まりました。ところが、生活相談員も資格取得のため辞めてしまいました。理事長は「あなたが相談員をなささい」と。「私は福祉を知りません」と答えると「福祉は文化です！あなたは日韓両方の文化が分かっているからやってみたら」と。

引き継ぎで、在日のご利用者さんのご自宅に伺い韓国語で会話をしたり、日本語も私はまだ専門の言葉が使えず簡単な日本語を使うから「あなたの説明は分かりやすい」と喜んでくれたこ

とが嬉しくてね。「私いけるかな？」と思い、福祉の1年生になりました。でもそれからは失敗も多くて（笑）

良きメンバーに恵まれて

——そして神戸の施設長に

朴 神戸のケアプランセンターの立ち上げのためにおられた大松節子さんは私に福祉の様々なことを教えてくれました。まさに「動く福祉の教科書」。理事長が大松さんに神戸の施設長を打診すると「朴さんが副施設長だったら私はお受けします」と条件を出されて。大松さんは1年後に施設長を降りて2005年に私は施設長になりました。

その時のメンバーが良くてね。藤原一臣さん（現故郷の家・京都施設長）はデイスリーブの立ち上げを手伝ってくれました。私が堺にいたときに藤原さんは主任でしたが介助などの仕事ぶりに感激して「これが福祉なんだ」と思わせてくれました。松下良平さん（現・故郷の家・神戸施設長）はテキパキとした仕事ぶりやご利用者さんとのコミュニケーションの取り方がすごい。川越孝男さん（現故郷の家・京都介護課長）はリーダーシップと難しいケースでも優しい対応ができる、などみんなのお陰で私の評価が上がって感謝でした。

——その後、2009年に故郷の家・京都、2016年に故郷の家・東京が開設されることに施設長に。施設長としての采配もさることながら数々のプログラムを企画する名プロデューサーとしての活躍も

朴 ご利用者さんに「ああ、今日も楽しかった！」「故郷の家で過ごして良かった」と言ってもらいたい一心です。いつもヒントをくれるのは理事長。理事長は毎年元旦にご利用者さんにお年玉を渡されていた。でも、ぼち袋が行方不明になる。では日本で昔から伝わる「福袋」にしましょう、とアイデアを出した。

ファッションショーもそうです。クリスマスディナー（今はクリスマスランチに変更）はご利用者ご家族から「お母さんとクリスマスを過ごすレストランが車椅子対応してくれない」と聞き「ここですればいいんだ」と。職員さんたちに衣装をそろえてもらいレストランのホール係風に。レストランさながらのテーブルセッティングもして。その他個別誕生日会は目の前でライブ調理を行いお祝いします。

——堺でも、そのようなプログラムは続けますか

朴 もちろんです。堺に着任して驚いたことは、現場の職員さんたちが素晴らしいことです。ご利用者さんへの対応もきめ細やかで家族のように接する姿にびっくりしました。プログラムをしたいと提案すると、レクリエーションを工夫しながらすぐに実行してくれる。一致団結力がすごい！これから地域交流の一環で、地域の後期高齢者を招いて韓国料理を食べてもらう韓国食体験などを開く予定で、楽しみです。

——施設をまとめるリーダーとして人を活かされる

朴 ご利用者さんの暮らしを守るには私だけでは解決できない。たくさんの方が必要です。多くの方々の「出来ること」を合わせ仕事になる。私は面接で必ず自分自身の長所と短所を聞きます。その長所を活かして、その人からアイデアを出してもらって、とりあえずやってみましょう、と。失敗したらそこから学べば良いと思っています。

いつも応援してくれた母

——これまで仕事を続けてこれられてつらかったことはありませんか

朴 3年前、私は仕事を辞めて韓国に帰り、1人暮らしをする母と一緒に暮らす予定でした。ところが、その前に母はお風呂場で転倒し脳内出血を起こして入院。私は韓国に飛んで帰り、母を退院させて自宅で2週間看護しました。次の年の3月には韓国に帰るからそれまで頑張つてねと仕事に戻りましたが、1月に母は亡くなってしまいました。今思い返せばつきつきりで看護した2週間が本当に幸せな時間でした。母は私のすることに一度も「ダメ」と言ったことがなくいつも応援してくれていた。大好きな母です。母のことを思い出すたびに涙があふれます。

——日本の故郷の家で仕事を続ける上での源を教えてください

朴 やはり、法人の理念「国境・民族・文化を越えて共に生きる心豊かな社会」に賛同し続けていること、そして、音楽家だった私を福祉の世界で施設長になるまで育ててくれた恩返ししたいとの思い。また、人として、故郷の家では仕事ができないまま、役に立たない人として韓国に帰るのが嫌だったこともあり。私を必要としてくれるところがあることは喜びです。

——これからの抱負を

朴 今回、初めて「施設長」として堺に着任しましたが、コロナ禍以降地域との交流が途絶えてしまっている。保育園や幼稚園の子どもさんたちが訪ねてきてくれたら、と願っています。そして、故郷の家は37年の歴史がある分建物や家具等古くなって修繕が必要となっているので皆様のご協力と寄付金を集めながら、計画的に環境整備にも尽力していきたいです。

（聞き手・横山まゆみ）

*

朴 正米（パク・チョンミン） 故郷の家施設長。元声楽家。韓国木浦生まれ。韓国の大学で音楽専攻を卒業。武蔵野音楽大学大学院に留学。イタリアなどでの学びを経て韓国で「帰国コンサート」開催など多数のコンサート出演。音楽の教鞭をとる。

1998年4月、故郷の家国際業務担当・音楽セラピストとして入職。
01年4月、故郷の家・神戸生活相談員
05年4月、故郷の家・神戸施設長
09年6月、故郷の家・京都施設長
14年4月、故郷の家・京都ケアハウス施設長
15年6月、故郷の家・神戸施設長
17年10月、故郷の家・東京ケアハウス施設長
18年1月、故郷の家・東京施設長
24年7月、故郷の家・神戸の施設長
25年10月、故郷の家の施設長に就任

思い出のコーラスが特養に響く

7月18日、「合唱団かえるたち」によるコンサートが開かれました。

同合唱団は1984年2月江東区立第一大島小学校PTAのコーラスとして発足。今年2月で42周年を迎えたそうです。

実は、当施設に入居されている藤井信恵さん（92）は、この合唱団の初代代表で、約30年も務めました。その元代表に今の合唱団の姿を届けようと、この日の施設公演の運びとな

りました。

合唱団のメンバーは平均年齢70代後半の元ママさんたち13名。指導・指揮はソプラノ歌手の穂積磨矢子さん。伴奏は作曲家@ピアノニスト、篠田昌伸さんという構成。

ゴンドラの唄、東京ブギブギ等の昭和歌謡や、年下の男の子、サウスボー等馴染みの歌のメドレー。皆さんリズムを取りながら手拍子、そして一緒に歌う方もいらしてノリノリでした。

公演がきまつてから藤井さんは、娘さん作成の大きな歌詞カードで毎日自主練習。日に日に声が出るようになり、本番は「夏のメドレー」から舞台のそでに出て一緒に歌いました。「今日が一番声が出ていました」「母の歌を聴くのは何十年ぶり」と娘さん。声を詰まらせていました。

穂積磨矢子さんのソプラノソロ、篠田昌伸さんのピアノ独奏は思いがけないサービス。会場は大いに盛り上がりました。最後に「夏の思い出」とふるさと」を全員参加で合唱。

92歳、歌がつないだ40年越しの再会。奇跡のように重なった歌声が故郷の家・東京に響きわたりました。

（表紙にも写真）



東京

ハワイアンを楽しみました

神戸



「ヒマナハワイアンズ」の皆様によるハワイアンダンス公演が行われました。

華やかな衣装で披露されるフラダンスやハワイアンソングに、会場は一気に南国ムードに。ご利用者からは自然と手拍子が起こり、曲に合わせて一緒に歌ったり、手を動かして踊ったりする姿も見られました。

「きれいやね」「楽しいね」と笑顔で話される方も多く、普段とは少し違った雰囲気の中、皆様それぞれに公演を楽しまれていました。

最後まで大きな拍手が送られ、会場全体が笑顔に包まれた、楽しいひとときとなりました。



花火大会を開催

施設の中庭で花火大会を開催しました。

夕暮れ時、1階ホールに集まった利用者様の前で、色とりどりの花火が次々と上がりました。

花火が上がるたびに歓声や拍手が起こり、皆様、夜空に広がる花火を楽しそうに眺められていました。「きれいやね」「夏らしいね」と話される方もおられ、花火を楽しみながら、夏を感じるひとときとなりました。



いろんなクラブ活動 楽しんです



故郷の家では毎週土曜日と日曜日にクラブ活動の時間を設けています。

将棋クラブ、書道クラブ、塗り絵・折り紙クラブに皆様はそれぞれ興味ある活動を選んでいただき参加しています。「今日は私が勝った」「うまく書けないわ…」「この色にします」など楽しんでおります。

この外にも日常生活の中でご利用者が楽し

める音楽療法教室、カラオケ大会、おやつレク、ふるさとカフェ、移動スーパー、移動パン屋、個別誕生日のお祝い会、ライフ調理、買い物外出などがあります。これからも引き続き多彩なレクリエーションを取り組んで参ります。



父の日は居酒屋で「ビールがうまい!」

6月21日、父の日を記念して居酒屋を行いました。

故郷の家のお父さん 22 名は普段と違う場所で当日のメインメニューであるチラシ寿司に焼きそばとだし巻き卵を追加し、ノンアルコールビールで居酒屋の雰囲気を楽しみました。

カラオケを歌いながら、「ビールがうまい」「全部美味しい!」「今日は楽しかった」と述べていただき雰囲気は一層盛り上がりしました。

堺



京都



「祇園祭ドライブ」 間近で見る山鉾は大迫力
故郷の家・京都では、7月10日～7月13日にかけて、夏の始まりを告げる「祇園祭ドライブ」に行ってきました。京都施設ならではの行

事の1つで、皆さん毎年楽しみにされています。

鴨川沿いを北にドライブすると、京都の夏の風物詩、納涼床が並び、夏の京都を感じることが出来ます。四条通りに入ると、実際に間近で山鉾を見ることができ、その迫力に皆さん、とても感動していました。

京都の繁華街ということもあり、「すごい人やね。」「昔はよう来たわ。」などと、話をされていました。

■ 共生園（養護施設） 見て味わう五感体験ツアー（株）ハリムの工場見学



共生園の小学生 20 名と全羅北道益山市にある韓国を代表する食品メーカー「株式会社ハリム」を訪れ、「見て食べて楽しむ体験型工場見学ツアー」に参加しました。

今回の見学では鶏肉の加工から包装まで、すべての工程が衛生的かつ最先端の設備や手法で行われている様子を、子どもたちが実際に見て確認しました。

特に学校でのカリキュラムとも関連づけながら、毎日食卓に並ぶ食べ物がどれだけ心を込めて作られているかを学ぶことができ、とても有意義な時間でした。

■ 共生再活院（知的障害者施設） 国立木浦大学温情奉仕団の来訪

国立木浦大学社会科学大学の学生会が主催する「温情奉仕団」は、4 つの学科の学生が専攻分野の知識を地域社会に還元しながら社会的責任を実践しています。

ボランティアの学生たちは塗り絵やビーズ工芸、じゃんけん遊びやブロック遊びなどをしてご利用者と過ごしました。ご利用者の皆さんも集中して取り組み、その姿がとても幸せそうでした。

学生会のキム・カハ会長は「ボランティア活動を通して皆さんと交流しながら、分かち合いの意味を改めて実感することができました。単に支援するだけでなく、お互いの話を聴き合う貴重な経験となりました。これからも地域社会にプラスの影響を与えられるよう、ボランティアへの参加を続けていきます」と感想を語ってくれました。



■ 木浦障害者療養院（重度障害者施設） 全羅南道障害者スポーツ大会 テコンドー団体戦の2種目で銅メダルを獲得

第 34 回全羅南道障害者スポーツ大会のテコンドー競技にチョン・セナさんが出場しました。

利用しているミョンド福祉館のご利用者とチームを組み、女子団体戦と男女混合団体戦に参加し、2 種目とも 3 位に入賞しました。

セナさんは「とても緊張したけれど、皆さんが応援してくれて力が湧いてきた。次回も参加して、もっと上のメダルを目指したい」と感想を述べました。



皆様のご支援に感謝申し上げます



2026 年 6 月～ 2026 年 7 月 寄付合計 4,996,212 円

堺	298,872 円	京 都	3,475,000 円
大 阪	0 円	東 京	504,340 円
神 戸	30,000 円	法 人	688,000 円

2026 年 6 月～2026 年 7 月の寄付者 (敬称略)

金下 慶子	藤田 裕之	田村こどもクリニック	瀧澤 織衣	株式会社グローバル	大島 仁
枝川 愛の教会	星田 正雄	院長	佐藤 友美	代表取締役	堺募金箱
ながやま歯科 院長	ベン株式会社	田村 保憲	峯岸 義則	川島 忠義	青木 茂
永山 成大	金氏高麗人参株式会社	忠内 一由 有紀	金 賢成	オートプロ島田	高林 實結樹
鈴木 仁	有限会社テラフ貨物店	株式会社ヤマエンター	樽井 幸一郎	島田 隆男	小林 四郎
澤山 勝三	佐藤 美津子	プライズ	松井 珍男子	小西 孝蔵	和氣 純子
李 善恵	松下 令子	代表取締役	津田 眞弓	株式会社 金嶋	徳山 共美
阿部 治利 寿子	株式会社スポーツ寿苑	池 正淑	松下 良平	森山 裕熙	田中 富美子
金 東春	代表取締役社長	中野 敏彦	藤原 興	大澤 勝哉	姜 景兒
王 寛一 蔡 福美	鄭 貞子	岩佐 仁己	吉澤 まゆみ	岡野 和子	佐藤 重之
国際創造教育協会	岩崎 濱子	故郷の家 京都募金箱	埼玉・コリア 21	朝陽不動産株式会社	駐日本国大韓民国大使館
藤原 一臣	松井 政男	柳川 良子	小川 満 厚子	朝陽 高吉	
李 守陳	田内 緑	炭谷 茂	浅野 和子	宮本 浩吉	
中村 啓子	岡 真由美	徳岡 暁波	長谷川 達雄		

2026 年 6 月～2026 年 7 月の寄贈者 (敬称略。すべての方のお名前を記しているわけではありません。ご了承ください)

■故郷の家(堺)	訪問美容 Door&Q	吉田 君代	池永 京子ご家族	陶化すこやかクラブ	神田 英資ご家族
澤田 和代ご家族	ワタキューセーモア	仲井千代子	張 守行ご家族	京都南病院	小山 はつゑご家族
芦口 義令ご家族	あゆみ介護センター		酒部 和子ご家族	一般社団法人	権田 芳子ご友人
柳生 民枝ご家族	南高尾自治会	■故郷の家・神戸	尹 孝仁	国際創造教育協会	韓国・釜山カトリック
松葉 恵美子ご家族	泉北陣内病院	小嵐 一廣		公益社	大学
金子 信子ご家族	テストティバル	金 泰淑ご家族	■故郷の家・京都	(株)シティライフサー	森井整形外科
田中 キノエご家族	仏光殿	中道リファイン薬局	河 徳必ご家族	ビス	森井 太郎
中村 美智子ご家族	ながやま歯科	片岡 東洋子	元生 信子ご家族	石原薬局	タムスさくらの杜 亀戸
鷹 巢明ご家族	湯川歯科医院	中村 美佐子	大橋 一美ご家族	こまき歯科医院	平安祭典
有馬 孝美ご家族	ハナチャーム	ファーストリネンサー	辻 一夫ご家族		医療法人社団 修世会
野中 勝喜ご家族	アサヒ製作所	ビス(株)	松山 俊一ご家族	■故郷の家・東京	木場病院
板谷 専一郎ご家族	ここかえるからくに	中田 康子	松本 浪子ご家族	加藤 ゆり子ご家族	院長 大井田 基
井上 清之ご家族	(株) P O L T E	津田 智恵子	高山 和子ご家族	相川 佐代子ご家族	医療法人社団 江翔会
ソウル市在宅老人福祉	BONHEUR	湊 正行	林 順子ご家族	中西 友子ご家族	eko デンタルクリ
協会	大石 茂美	茂山 静枝ご家族	松下 すみ子ご家族	中島 満ご家族	ニック
齊州特別自治道社会福	リスシステム	羽谷 宗一	森山 己淑ご家族	尾崎 好江ご家族	理事長 高垣 江津子
祉協議会	松島 如戒	村上 順子	安東 千代子ご家族	早川 クメご家族	Ohana治療院
在日本大韓国民国大	ウィルオブワーク	テストティバル(株)	申 月順ご家族	東谷 君子ご家族	東京恩平教会
阪府地方本部	村上 秀夫	木村 勝利ご家族	田花 安子ご家族	津田 義雄ご家族	牧師・宣教師
医療法人錦秀会	社会福祉法人成光苑	川添 幸子	村田 秀子ご家族	瀧澤 トミ子ご家族	関 秀植
福祉部	高岡 國士	中村 貞順	大川 晴子ご家族	松本 貞子ご家族	
社会医療法人ペガサス	松本 光恵	新井 泰孝ご家族	森島 清子	佐藤 ヨネご家族	

2026 年 6 月～2026 年 7 月の来訪者・ボランティア (敬称略)

■故郷の家(堺)	北川眞由美 (9名)	京 都 PANA-ALC 3名	東京恩平教会	13名
体操ボランティア	山本 公一	(傾聴ボランティア)	10名	合唱団かえるたち
川口 眞利子	■故郷の家・神戸	岡本 秀、川崎 由佳	POSCOJAPAN 株式会社	13名
泉北キリスト恵み教会	サランの会(岸田 重	(芸術活動)	40名	ソウル恩平教会
いずみチャペル	徳他8名)	■故郷の家・京都	POSCOINTERNATIONA	
松本 光恵	神戸教会(3名)	鄭 仁淑(カラオケ)	L 株式会社	
小田ヒターナ	ヒマナハワイアンズ	「なつめろを唄おう会	(韓国) 江南忠岷教会	
		3名(カラオケ)		
		■故郷の家・東京		
		中島 榮美(生け花)		

◆◆◆ クロスワードパズル ◆◆◆

神戸市立博物館のオリジナルグッズから、チケットホルダーを2名様に。サイズは閉じた状態で20.5cm×10cm。
※2種類のうちの1つ。どちらになるかはおまかせください。

応募は、クロスワードパズルの答、住所・氏名・電話番号をお書きのうえ、はがきなら〒590-0142堺市南区檜尾3360-12「故郷の家・クイズ係」へ、メールでの応募はnews@kokorono.or.jpへどうぞ。10月10日締め切り。

本誌をお読みにになった感想、メッセージなどどうぞお書き添えください。よろしく！



プレゼント



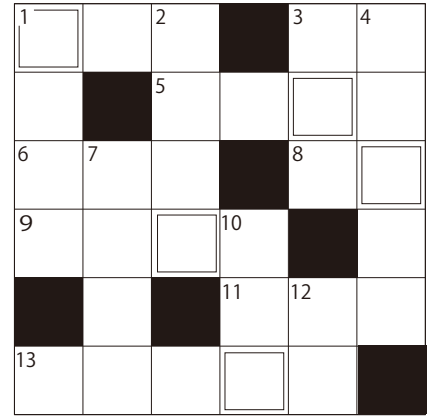
二重マスの文字を組み合わせてできる言葉を答えてください。

【ヒント＝今年デビューしました】

※前回の答は「ソウリダイジン（総理大臣）」でした。

➡ ヨコのカギ

- ①海の中でゆらゆらと…。
- ③土地の価格。
- ⑤地震にも耐えられるよう——設計を。
- ⑥トロイの——。
- ⑧桃太郎が持っていたのは——団子。
- ⑨九州のラーメンといえば。
- ⑪つらいときも、決して失わないで…。
- ⑬肉や魚などを避け、植物性食品を中心にする食生活。



- ①10年前と今年、二度も地震が。
- ②シューズボックスですね、今は。
- ③予備——、専門——、——。
- ④病人につきそって世話をします。
- ⑦煙でいぶすことで独特の風味が。
- ⑩月がともきれいですね。
- ⑫一人称の一種。

↓ タテのカギ

「故郷の家」では共に働く仲間を募集中です

- ◆人と地域に寄り添う、心温まる仕事です！
- ◆文化的なプログラム(行事)も豊富で楽しい職場です！



施設見学随時受付中！お気軽に

お問い合わせ先：大阪府堺市南区檜尾3360-12
法人本部事務局 松下宛
TEL:072-271-0881 FAX:072-271-5474
E-mail: honbuzimukyoku@kokorono.or.jp

こころの家族のサポーターになってください

- A) 愛の寄付金 …………… 自由な金額
- B) 遺贈寄付 …………… 自由な金額
- C) 相続寄付 …………… 自由な金額
- D) 賛助会員 …………… 月 1,000 円 (年 1 万 2 千円)
- E) 奨学会会員 (留学生や孤児・障害児支援) …………… 月 5,000 円 (年 6 万円)
- F) 1%会員 (所得、売上、祝儀、遺産、感謝)
- G) 1坪会員 (施設の新築・改築や環境改善支援) …… 30 万円

ご送金の方法

郵便振替 □座番号：00940-0-329280
加入者名：社会福祉法人こころの家族
銀行振込 銀行名：三菱 UFJ 銀行
支店名：光明池支店 普通 1052623
口座名義：社会福祉法人こころの家族

お気軽に
お問い合わせ
ください。

故郷の家のご利用相談や
寄付。困っている高齢者、
留学生、外国籍の方も

■ 故郷の家（堺） 朴正米（施設長）
大阪府堺市南区檜尾 3360-12 TEL 072-271-0881
ブログ <http://kokyosakai.blog40.fc2.com/>

■ 故郷の家・神戸 松下良平（施設長）
兵庫県神戸市長田区東尻池町 7-4-21 TEL 078-651-1555
ブログ <http://kokyokobe.blog40.fc2.com/>

■ 故郷の家・京都 藤原一臣（特養施設長）
山田善太郎（ケアハウス施設長）
京都府京都市南区東九条南松ノ木町 47 TEL 075-691-4448
ブログ <http://kokyokyoto.blog41.fc2.com/>

■ 故郷の家・東京 高橋千津子（特養施設長）
塩川優子（ケアハウス施設長）
東京都江東区塩浜 1-4-48 TEL 03-3644-0555
ブログ <http://kokyotokyo5.blog.fc2.com/>

本法人は統一教会とは関係ありません

